

施策評価シート(平成29年度)

(基本施策の大綱) 1. 快適さを支える生活基盤の向上

(基本施策) (4)道路の保全・整備

(評価担当者)

産業建設部長 大澤 哲也

■基本施策が目指す姿

市民が、保全・整備された道路を利用して、安全で快適に生活を送っています。

■関連する分野別計画

■成果指標

	単位	現状値		実績値					目標値	
				H29	H30	H31	H32	H33		
1	都市計画道路の整備率	%	58.1	H27	58.1					70.0
2	市道の改良延長	km	-	H27	0.17					2.5
3	橋梁の耐震化率	%	45.5	H27	46.4					50.0
4	道路環境美化ボランティア活動団体数	団体	9	H27	10					14
5										

■市民アンケート調査

項目		現状値 [H27]	1次 [H30]	2次 [H32]	市民アンケートの考察
1	国道などの幹線道路が整備されている	重要度 1.21			
		満足度 0.31			
2	生活に身近な道路が整備されている	重要度 1.35			
		満足度 0.28			
3		重要度			
		満足度			
4		重要度			
		満足度			
5		重要度			
		満足度			

■総合評価

総合判定	左記の総合判定とした理由
A 順調に進んでいる	幹線道路との接続道路などの生活道路の充実、順調に施策推進を図ることができており、橋梁の耐震化など安全に配慮した道路整備、及び橋梁の長寿命化や市道川崎白木線の舗装修繕など道路の適切な維持管理についても、順調に施策推進を図れており、いずれも個別判定をA判定としている。市道と賀白川線や市道野村布気線などの幹線道路の整備は、まずまず進んでおり、B判定としている。基本施策に設定している4指標のうち、3指標において実績値の上昇がみられるなど、基本施策の目指す姿に向け、各施策の推進により順調に近づけることができていると考えられることから、総合判定をAとした。
反省点・課題	
幹線道路の整備については、道路ネットワーク及び市内環状線構想を踏まえ、市道と賀白川線の国道1号亀山バイパス以北の供用が求められている。また、市道野村布気線は、供用開始に向け、関係機関との合意・調整を図り、事業進捗を図る必要がある。社会資本整備総合交付金など国交付金を活用する事業については、交付金の配分率が年々下がっており、財源確保が大きな課題となっている。そのほか、都市計画道路の見直しの検討が必要であるとともに、鈴鹿亀山道路や国道1号関バイパスなど広域幹線道路の整備について、具体的な動きがないことから、関係機関と連携し、早期整備に向け取り組みを行っていく必要がある。また、新たな道路環境美化ボランティア団体の確保が必要である。	

今後の展開方針

幹線道路の市道と賀白川線については、国道1号亀山バイパス以北の事業進捗を図るとともに、市道野村布気線については、関係機関との協議・調整を行い、工事を進める。地域生活道路の改良、橋梁、舗装修繕については、国等の交付金を活用し、計画的に進めていく。都市計画道路の見直しについては、具体的な課題を整理し、関係機関との協議・調整を進める。鈴鹿亀山道路や国道1号関バイパスなど広域幹線道路の整備については、早期実現に向けた取り組みを、関係機関と連携し、さらに強化していく。道路環境美化ボランティア団体の増加に向け、事業所への働きかけや活動状況のPRに取り組む。

(施策の方向に関する評価)

施策の方向① 幹線道路の整備						
(個別判定)	活動	【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】	評価	【左記の活動により、施策は推進できているか】		
B		市内環状道路の整備としては、市道と賀白川線の北伸部の用地測量に一部着手した。また、市道野村布気線については、供用開始に向けて計画どおり事業の進捗を図った。 国道1号関バイパス及び鈴鹿亀山道路について、市民団体と協働し、意見交換や要望活動を行った。		市内環状道路の整備は、円滑な交通処理を行う上で重要であり、また、亀山地域と関地域の連絡性の向上を図る上でも重要である。こうした観点からも、計画的な幹線道路の整備は進捗が図れている。国・県の道路整備についても、早期整備に向け、要望活動を行うなど、国等への働きかけを行う事で、概ね推進できている。		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17016	都市計画道路整備事業(野村布気線)	主	299,436 / 282,362	A	B
事業以外の取組	内容				活動	成果
	国道1号関バイパス建設促進同盟会、鈴鹿亀山道路建設促進同盟会要望活動等				A	B

施策の方向② 生活道路の充実						
(個別判定)	活動	【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】	評価	【左記の活動により、施策は推進できているか】		
A		幹線道路との接続道路や、防災上及び交通安全上の整備が必要とされる市道の改良を図った。また、個人や路線単位での道路後退事業の進捗を図った。		災害に強い住環境の整備を行う上でも、生活道路は重要な役割を果たすものであり、改良や道路後退事業などにより、狭い生活道路の解消が図れ、充実が図られている。		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17017	狭隘道路後退用地整備事業	主	14,600 / 13,300	A	A
	8075	市単道路整備事業	標	32,363 / 31,595	A	A
事業以外の取組	内容				活動	成果

施策の方向③ 安全に配慮した道路整備						
(個別判定)	活動	【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】	評価	【左記の活動により、施策は推進できているか】		
A		橋梁耐震化補強事業計画に基づき、川谷椋川橋の耐震補強工事を計画的に実施した。また、通学路における安全性の向上を図るうえで、PTA、亀山警察署との合同点検を行い、安全に配慮した歩行空間の保全・整備を図った。		歩行者のだけれども、安心して移動できる歩行空間の保全、整備を図るとともに、橋梁の耐震化補強の推進が図れたことから、安全に配慮した道路整備は推進できている。		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17024	橋梁耐震化補強事業	主	30,000 / 29,633	A	A
事業以外の取組	内容				活動	成果

施策の方向④ 道路の適切な維持管理						
(個別判定)	活動	【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】	評価	【左記の活動により、施策は推進できているか】		
A		橋梁長寿命化修繕計画に基づき、高速道路に高架している橋梁補修業務委託を実施した。また、舗装維持管理計画に基づき、市道川崎白木線の舗装修繕を実施した。 道路環境美化ボランティア団体等との協働による道路環境美化に努め、積極的な啓発を行い取り組んだ。		予防保全型の考え方を取り入れ、効率的・効果的に進めることができ、また、橋梁補修についても、工事費の縮減に努めた委託業務を行う事ができた。また、道路環境美化ボランティア団体との協働による道路の環境美化に努めることができ、道路の適切な維持管理が図れている。		
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17018	橋梁長寿命化修繕事業	主	8,000 / 7,529	A	A
	17019	舗装老朽化対策事業	主	61,500 / 61,275	A	A
事業以外の取組	内容				活動	成果
	道路環境美化ボランティア制度の推進				A	A